



1.リースレシュノルティア(クサトベラ科) まるでクリスマスリースのような形をした花が、乾燥した地面に転々と咲いている 2.スパイダーオーキッド(ラン科)の一種 花弁が蜘蛛の形に見えることから名前がついた蘭 3.カンガルーポー (ハエモドルム科)の一種 「カンガルーの足」という意味の通り、産毛の密生した特殊な形をした花 4.通称エバーラスティングと呼ばれるキク科の植物が乾燥した大地を覆う 5.ピンクサンレイ(キク科) 別名タイムレスローズ(永遠のバラ)の通り、花期が過ぎた後もドライフラワーのような状態で野に咲き続ける



# 西オーストラリア州 WILDFLOWER TRAILS

## ワイルドフラワー街道をたどり 世界屈指の種類の植物が自生する花園へ

どこまでも赤い大地が続くオーストラリア大陸。乾燥した内陸部では、車で数時間走っても景色がかわらないことも決して珍しくはありません。しかし、沿岸部は緑豊かな場所も多く、赤茶けた大地のイメージを覆す豊かな自然が、私達を迎えてくれます。

オーストラリアの春にあたる8月から10月にかけて、西海岸の一部の地域では、それまでの荒涼とした景色を打ち破るように野生の花々、ワイルドフラワーが一斉に花を咲かせます。大群落を作るエバーラスティング、抜けるような青空に映えるワトル、奇妙な形をしたカンガルーポーや、ランの数々。ワイルドフラワーによる一大スペクタクルが目の前でくり広げられます。

この「花の一大イベント」を目にしようと、西海

岸の街パースには世界中から花好きが集います。市内周辺でこの時期だけ開催される、フラワーフェスティバルを楽しむひと、ワイルドフラワーを求め車で大地を駆け巡るひとと、花へのアプローチはそれぞれですが、みな花との出会いに期待を膨らませています。

ワイルドフラワートレイルと呼ばれる野生の花街道を車で巡る旅に出れば、次々に見たことのない花が現れ、次はどんな花に出会えるだろうかという高揚感から数百キロという移動が、嘘のようにあっけなく感じられるほどです。シーズン中、道中の宿では同じ目的の旅人がほとんどで、「今日はこの花を見た」、「あの花が見たければ、あそこに行ったほうがいい」とまさに花談義に花が咲き、旅を盛り立てます。

ひとしれず荒野でくり広げられる野生の花々の祭典に参加すれば、だれもがワイルドフラワーの虜になってしまうことでしょう。

